

中野字前原の諏訪原（すわっぱら）には猿楽跡（さるがくあと）と伝えられる円形の土壇が残り、付近はパテレン山と言われています。出土品には中国産陶器の青磁の大皿、瀬戸・美濃系陶器の天目茶碗、他に江戸時代の伊万里青磁の筆皿、ガラス小瓶があります。青磁の大皿と天目茶碗は14世紀末～15世紀前半頃と推定され、室町時代における県内資料の好例に数えられています。



てんもく  
天目茶碗

パテレン遺跡出土品

●町指定重要文化財 ◆邑楽町教育委員会蔵

### 青磁の大皿

パテレン遺跡出土品

●町指定重要文化財

↓伊万里青磁の筆皿



◆邑楽町教育委員会蔵

### じんこうじ 神光寺の大カヤ

●県指定天然記念物 15P/C-2



文永2年（1265）、中野氏が中野館を構築した時に植えられたと伝えられ、樹齢700年近くになる巨木です。

住 邑楽町中野 3015

### えいめいじ 永明寺のキンモクセイ

●国指定天然記念物 15P/C-2



元弘元年（1331）、永明寺を開いた室町時代の名僧夢窓国師（むそうこくし）のお手植えと伝えられ、樹齢は700年。昭和41年の台風で倒れてしまいましたが、幹から出た芽が生長し現在の樹勢に回復しました。

住 邑楽町中野 2933

### ●町指定重要文化財 松本23号古墳出土銀象嵌大刀

松本古墳群の23号古墳は、中野字大根村（だいこむら）にあった直径12mの円墳でした。平成元年に発掘調査が行われ、横穴式石室から大刀二振、金環などが出土。大刀の鍔（つば）の表裏と小口・はばき（鍔を刀身に固定する金具）2枚、鞘尻（さやじり）の6ヵ所に、連続した渦巻き文が銀で象嵌されていました。

◆邑楽町教育委員会蔵



### うづら 鶺鴒城

●町指定史跡

14p  
E-3

鶺鴒城は、多々良沼に突き出た半島状の台地を利用した城。鎌倉末期、北条高時の弟慧性（えしょう）とその弟荒間朝春（ともはる）が城を築き、その後多々良忠致（ただむね）の居城となり、戦国時代には小曾根玄蕃允正好（げんぱのじょうまさよし）が城主でしたが、天正18年（1590）廃城となりました。

住 邑楽町鶺鴒新田 6-1

# おうちの歴史 見てみやつせ

悠久の時を経て  
息づく歴史と  
出会える。

### うづらこじょううち 脇差鶺鴒城打

●町指定重要文化財

「康継以南蛮鉄於上州鶺鴒古城作之」の銘のある長さ44.8cmの脇差。江戸時代初期、鶺鴒城で打られたもので、土地の旧家に伝えられてきました。「城内」ジョンチの西に接して「天狗屋敷」があり、刀工が住んでいたと伝えられています。

◆個人蔵

## 中村節也の絵画 (作品数 20 点)

中村節也 (1905-1991) は旧赤堀村 (現在の邑楽町赤堀) に生まれ、旧制前橋中学校 (現在の前橋高校) に学び絵の道を志します。数々の展覧会などで入選・受賞を重ねた後、独立美術協会に属して制作発表を続けます。その作風は、力強く豊かな色彩感覚を持っていると言えます。また、その画業は群馬県美術会を始めとした群馬の美術界発展に多大な貢献をするものでした。



↑ 作品「湖畔の対話」(1964年作)

◆ 邑楽町教育委員会蔵

→ 作品「益」(1974年作)

◆ 邑楽町教育委員会蔵



## 岡部蒼風の書 (作品数 82 点)



岡部蒼風 (1910-2001)  
邑楽町藤川生まれ。戦後、  
前衛書道運動の旗手の一人として活躍。

岡部蒼風は、明治 43 年旧高島村藤川 (現在の邑楽町藤川) に生まれ、本名を幸十郎といいます。師範学校で半田神来に師事した後、昭和 9 年比田井天来 (ひだいてんらい) に師事。昭和 27 年、池田水城 (すいじょう)らと「草人社」を結成し、前衛書道運動の旗手の一人として活躍します。昭和 41 年、「蒼狼社」を設立。昭和 59 年には、書・陶芸・絵画・彫刻・版画・七宝などの作家らと「沙鷄 (さけい) 会」を結成。新人作家の育成も目指しました。

## 中野緋一式

町指定重要有形民俗文化財

中野緋は、邑楽町の中野を中心に生産され、明治以降急速に発展。大正期木綿の白緋としては、「西の大和緋 (奈良県大和高田市)」、東の中野緋」と並び称されました。戦後、社会の変化などにより中野緋は姿を消しました。



◆ 邑楽町教育委員会蔵



町指定文化財について 邑楽町教育委員会 ☎ 0276-47-5043

## 慶徳寺山門 ● 町指定重要文化財 15P1B-2

慶徳寺は中世に栄えた正伝寺の跡に天正元年 (1573)、鉄翁霜金和尚 (てつおうそうきんわじょう) によって開かれ、この山門も創建当時のものです。構造は楼門造 (ろうもんづくり)、大きさ間口 5.2 m、奥行 3.3 m、高さ 7 m。外からは閻王殿 (えんのうでん) と書かれた額や閻魔大王を中心に十王の彩色座像を拝むことができます。

↑ 邑楽町石打 1055

## 新田四天王と呼ばれた天下無双の豪傑

しのづかいがのみしびる

## 篠塚伊賀守重廣の菩提所一大信寺 15P1B-3



篠塚伊賀守重廣は篠塚に生まれ、新田義貞の鎌倉攻めで勇名をとどろかすなど、新田四天王の筆頭に数えられています。その活躍ぶりは南北朝の動乱を描いた『太平記』に 7 回も登場。菩提寺である大信寺の境内北にある御廟には、宝篋印塔 (ほうきょういんとう) が祭られています。

↑ 和漢準源氏篠塚伊賀守重 (歌川國芳筆)

◆ 大信寺蔵

↑ 邑楽町篠塚 3999-2

篠塚伊賀守の廟墓→

